

社会福祉法人ほかにわ共和国定款

第1章 総則

(目的)

第 1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

(1) 第一種社会福祉事業

(イ) 障害者支援施設「八雲寮」の設置経営

(2) 第二種社会福祉事業

(イ) 相談支援事業所（つばき）

(ロ) 障害福祉サービス事業所

- ・ 短期入所事業（八雲寮）
- ・ 共同生活援助事業（八雲寮）
- ・ 生活介護事業（デイ雲）
- ・ 放課後等デイサービス事業（デイ雲）
- ・ 共同生活援助事業（悠炉里）
- ・ 生活介護事業（デイ雲柿の木）
- ・ 放課後等デイサービス事業（デイ雲柿の木）
- ・ 共同生活援助事業（デイ雲柿の木）
- ・ 就労移行支援事業（ワークネットやはた）
- ・ 就労継続支援B型事業（ワークネットやはた）
- ・ 自立訓練（生活）事業（ワークネットやはた）
- ・ 就労定着支援事業（ワークネットやはた）

(名称)

第 2条 この法人は、社会福祉法人ほかにわ共和国という。

(経営の原則等)

第 3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者に対して、無料又は低額な料金で、福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第 4条 この法人の事務所を長崎県南島原市加津佐町甲5527番地2に置く。

第2章 評議員

(評議員の定数)

第 5条 この法人に評議員7名を置く。

(評議員の選任及び解任)

第 6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、この委員会において行う。

- 2 評議員選任・解任委員会は、監事1名、事務局員1名、外部委員1名の合計3名で構成する。
- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は理事会が行い、評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。
- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員が出席し、かつ、外部委員が賛成することを要する。

(評議員の任期)

第 7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
- 3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第 8条 評議員に対しては、報酬の支給はしないこととする。

第3章 評議員会

(構成)

第 9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

- 2 評議員会に議長を置く。
- 3 議長は、その都度、評議員の互選により選出する。

(権限)

第10条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他、評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第11条 評議員会は、定時評議員会として、毎年度6月に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第13条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上の多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

- 4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第14条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名は、前項の議事録に記名押印しなければならない。

第4章 役員及び職員

(役員の数)

第15条 この法人には、次の役員を置く。

(1) 理事 6名

(2) 監事 2名

- 2 理事のうち1名を理事長とする。
- 3 理事長以外の理事のうち、1名を業務執行理事とする。

(役員を選任)

第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
- 3 理事長及び業務執行理事は、毎会計年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第18条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第19条 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
- 3 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第21条 理事及び監事に対しては、報酬を支給しないこととする。ただし、理事長に対しては、評議員会において別に定める報酬等の支給基準に従って算定した額を報酬等として支給することができるものとする。

(職員)

第22条 この法人に、職員を置く。

- 2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。
- 3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

第5章 理事会

(構成)

第23条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

- 2 理事会に議長を置く。
- 3 議長は、その都度、理事の互選により選出する。

(権限)

第24条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の軽易な業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び業務執行理事の選定及び解職

(招集)

第25条 理事会は理事長が招集する。

- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第26条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第27条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印しなければならない。

第6章 資産及び会計

(資産の区分)

第28条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産及び収益事業用財産の三種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

- (1) 長崎県南島原市加津佐町甲字横道下5527番2所在の障害福祉サービス事業所 ワークネットやはた 宅地 205.91㎡
- (2) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5718番2所在の障害福祉サービス事業所 ワークネットやはた 宅地 620.83㎡
- (3) 長崎県南島原市加津佐町甲字横道下5526番1所在の障害福祉サービス事業所 ワークネットやはた 宅地 350.00㎡
- (4) 長崎県南島原市加津佐町己字天辺277番1所在のグループホーム 宅地 1,527.89㎡
- (5) 長崎県南島原市加津佐町己字天辺278番3所在のグループホーム 雑種地 358㎡
- (6) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5718番地、甲字横道下5527番地1所在の鉄筋コンクリート造陸屋根2階建 やはた塾 塾舎1棟 340.00㎡
- (7) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5718番地、5731番地所在の
①鉄筋コンクリート造瓦葺2階建 障害者支援施設八雲寮及び在宅知的障害者デイサービス 事務所、食堂1棟 463.72㎡
(符) ①鉄筋コンクリート造瓦葺3階建 寄宿舍1棟 609.65㎡
(符) ②鉄筋コンクリート造瓦葺2階建 寄宿舍1棟 546.42㎡
(符) ③鉄筋コンクリート造瓦葺平屋建 浴室1棟 100.00㎡
- (8) 長崎県南島原市加津佐町甲字横道下5528番地、甲字西横道5716番地、5717番地所在の鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺2階建 障害者支援施設八雲寮体育館1棟 674.59㎡
- (9) 長崎県南島原市加津佐町乙字柳川880番地2所在の鉄骨造亜鉛メッキ鋼板ぶき2階建 グループホーム 宿舎1棟 240.45㎡
- (10) 長崎県南島原市加津佐町己字天辺277番地1所在の鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 グループホーム 寄宿舍1棟 618.25㎡
- (11) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5709番所在の八雲寮 実習園 208㎡
- (12) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5710番所在の八雲寮 雑種地 357㎡
- (13) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5711番所在の八雲寮 雑種地 452㎡
- (14) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5712番、5713番所在の八雲寮 雑種地 271㎡
- (15) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5714番所在の八雲寮 雑種地 267㎡

- (16) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5722番所在の八雲寮
雑種地 261㎡
- (17) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5723番所在の八雲寮
雑種地 238㎡
- (18) 長崎県南島原市口之津町甲字鼻崎1922番所在の八雲寮
実習園 1, 194㎡
- (19) 長崎県南島原市口之津町甲字天井1942番2所在の八雲寮
実習園 614㎡
- (20) 長崎県南島原市口之津町甲字天井1943番2所在の八雲寮
実習園 581㎡
- (21) 長崎県南島原市口之津町甲字天井1946番所在の八雲寮
実習園 466㎡
- (22) 長崎県南島原市口之津町甲字天井1947番所在の八雲寮
実習園 158㎡
- (23) 長崎県南島原市口之津町甲字天井1954番所在の八雲寮
実習園 627㎡
- (24) 長崎県南島原市口之津町甲字千歳平2308番所在の八雲寮
実習園 218㎡
- (25) 長崎県南島原市口之津町甲字千歳平2315番所在の八雲寮
実習園 593㎡
- (26) 長崎県南島原市口之津町甲字龍北2390番所在の八雲寮
実習園 1, 162㎡
- (27) 長崎県南島原市口之津町甲字龍北2403番所在の八雲寮
実習園 613㎡
- (28) 長崎県南島原市口之津町甲字龍北2405番所在の八雲寮
実習園 488㎡
- (29) 長崎県南島原市口之津町甲字龍来脇2447番2所在の八雲寮
実習園 720㎡
- (30) 長崎県南島原市加津佐町己字天辺277番地1所在の鉄骨造コンクリート屋
根3階建 グループホーム 寄宿舍1棟 298.11㎡
- (31) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5718番地2、甲字横道下5527番地
2所在の鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 障害福祉サービス事業所
ワークネットやはた 事務所、作業所1棟 324.51㎡
- (32) 長崎県南島原市加津佐町甲字西鳥越5785番地3所在の鉄筋コンクリート
造陸屋根2階建 知的障害者デイサービス 作業棟1棟 128.00㎡
- (33) 長崎県南島原市加津佐町甲字権田新切5497番所在のグループホーム
宅地 624.32㎡
- (34) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5726番地所在の木造かわらぶき
高床式平家建 八雲寮 社会福祉施設1棟 132.49㎡
- (35) 長崎県南島原市加津佐町甲字横道下5549番地、甲字西横道5706番地
所在の鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき2階建 ワークネットやはた
作業所1棟 314.52㎡

- (36) 長崎県南島原市有家町蒲河字田中2273番1所在のデイ雲柿の木
宅地 493.02㎡
- (37) 長崎県南島原市有家町蒲河字田中2285番1、2285番3、
2285番4所在のデイ雲柿の木 山林 53.01㎡
- (38) 長崎県南島原市有家町蒲河字弟堀2108番2所在のデイ雲柿の木
山林 73㎡
- (39) 長崎県南島原市有家町蒲河字田中2273番地、2285番地1所在の木造
かわらぶき2階建 デイ雲柿の木 社会福祉施設1棟 201.65㎡
(符) ②木造かわらぶき2階建 社会福祉施設1棟 131.96㎡
- (40) 長崎県南島原市加津佐町甲字横道下5548番1所在のワークネットやはた
雑種地 284㎡
- (41) 長崎県南島原市加津佐町甲字横道下5529番2所在の
ワークネットやはた雑種地 82㎡
- (42) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5706番地、5707番地所在の鉄骨
造合金メッキ鋼板ぶき2階建 デイ雲 社会福祉施設1棟 326.00㎡
- (43) 長崎県南島原市有家町蒲河字今城谷2637番地1所在の木造かわらぶき
平家建 グループホーム 宿舎1棟 161.00㎡
- (44) 長崎県南島原市加津佐町己字東松原2645番1所在のグループホーム
宅地 122.14㎡
- (45) 長崎県南島原市加津佐町己字東松原2645番地1所在の木造瓦葺2階建
グループホーム 宿舎1棟 102.52㎡
- (46) 長崎県南島原市有家町蒲河字田中2273番地1所在の木造かわらぶき2階
建 デイ雲柿の木 社会福祉施設1棟 129.27㎡
- (47) 長崎県南島原市加津佐町甲字権田新切5497番地所在の木造かわらぶき
平家建 グループホーム 宿舎1棟 179.13㎡
- (48) 長崎県南島原市口之津町甲字東方道2715番5所在の多目的施設 東望
宅地 133.26㎡
- (49) 長崎県南島原市口之津町甲字東方道2716番2所在の多目的施設 東望
宅地 804.43㎡
- (50) 長崎県南島原市口之津町甲字東方道2716番7所在の多目的施設 東望
宅地 32.57㎡
- (51) 長崎県南島原市口之津町甲字東方道2716番地2、2716番地3所在の木
造スレートぶき2階建 多目的施設 東望 1棟 221.11㎡
(付属建物) ① 鉄筋コンクリート造陸屋根平屋建 倉庫 37.62㎡
- (52) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5694番所在のデイ雲
実習園 760㎡
- (53) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5704番所在のデイ雲
実習園 52㎡
- (54) 長崎県南島原市加津佐町甲字西横道5708番所在のデイ雲
実習園 320㎡
- (55) 長崎県南島原市有家町蒲河字今城谷2635番地所在の木造かわらぶき
平屋建グループホーム 宿舎1棟 187.26㎡

- (56) 長崎県南島原市加津佐町己字横町2978番所在のグループホーム
宅地 170.06㎡
 - (57) 長崎県南島原市加津佐町己字横町2978番地所在の木造かわらぶき
2階建 グループホーム 宿舎1棟 162.49㎡
 - (58) 長崎県南島原市有家町山川字花之本195番3所在のグループホーム
デイ雲柿の木 宅地 14.67㎡
 - (59) 長崎県南島原市有家町山川字花之本196番1所在のグループホーム
デイ雲柿の木 宅地 392.27㎡
 - (60) 長崎県南島原市有家町山川字花之本197番1所在のグループホーム
デイ雲柿の木 宅地 141.59㎡
 - (61) 長崎県南島原市有家町山川字花之本197番2所在のグループホーム
デイ雲柿の木 宅地 378.53㎡
 - (62) 長崎県南島原市有家町山川字花之本197番地2所在の木造合金メッキ鋼板ぶ
き2階建 グループホーム 宿舎1棟 221.55㎡
- 3 収益事業用財産は、第36条第1項に掲げる収益を目的とする事業の用に供する
財産とする。
- 4 その他財産は、基本財産、収益事業用財産以外の財産とする。
- 5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手
続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第29条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認
を得て、南島原市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合に
は、南島原市長の承認は必要としない。

- (1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉
貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担
保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関す
る契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資
に係る担保に限る。）

(資産の管理)

第30条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確
実な有価証券に換えて、保管する。
- 3 前項の規定にかかわらず、基本財産以外の資産のうち現金については、理事会の
議決を経て、株式等に換えて保管することができる。

(事業計画及び収支予算)

第31条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日ま
でに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合
も同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第32条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)
- (5) 貸借対照表及び収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)の附属明細書
- (6) 財産目録

- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

- 3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第33条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第34条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第35条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

第7章 収益を目的とする事業

(種別)

第36条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、次の事業を行う。

- ・不動産賃貸業

- 2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

(収益の処分)

第37条 前条の規定によって行う事業から生じた収益は、この法人の行う社会福祉事業に充てるものとする。

第8章 解散

(解散)

第38条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第39条 解散(合併又は破産による解散を除く。)した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

第9章 定款の変更

(定款の変更)

第40条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、南島原市長の認可(社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。)を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を南島原市長に届け出なければならない。

第10章 公告の方法その他

(公告の方法)

第41条 この法人の公告は、社会福祉法人ほかにわ共和国の掲示場に掲示するとともに、官報及び長崎新聞に掲載して行う。

(施行細則)

第42条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理 事 長	志賀 俊紀
理 事	岩崎 孝
〃	渡邊 尚海
〃	井上 武久
〃	志賀 富美子
〃	平片 敏光
〃	溝田 民弘
監 事	近藤 孝信
〃	高橋 彰夫

附 則

- この定款は、平成17年11月11日から施行する。
- この定款は、平成18年 4月 1日から施行する。
- この定款は、平成19年 2月14日から施行する。
- この定款は、平成20年 8月 1日から施行する。
- この定款は、平成21年 7月21日から施行する。
- この定款は、平成22年 7月30日から施行する。
- この定款は、平成23年 8月 2日から施行する。
- この定款は、平成24年12月 3日から施行する。
- この定款は、平成24年12月27日から施行する。
- この定款は、平成25年 3月13日から施行する。
- この定款は、平成25年 6月18日から施行する。
- この定款は、平成26年 6月12日から施行する。
- この定款は、平成26年10月17日から施行する。
- この定款は、平成27年 4月14日から施行する。
- この定款は、平成27年12月 9日から施行する。
- この定款は、平成28年 5月 9日から施行する。
- この定款は、平成29年 4月 1日から施行する。
- この定款は、平成29年 7月14日から施行する。
- この定款は、平成30年 8月 1日から施行する。
- この定款は、平成30年10月 1日から施行する。
- この定款は、平成31年 4月 1日から施行する。
- この定款は、令和 2年 6月23日から施行する。
- この定款は、令和 3年 6月22日から施行する。
- この定款は、令和 4年 1月25日から施行する。
- この定款は、令和 5年 4月26日から施行する。